



|              |                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 生活情報番組のディスコース・ストラテジー：固定的性別役割分業意識の容認へと導く言語的装置の分析                             |
| Author(s)    | 西野, 由起江                                                                     |
| Citation     | 阪大日本語研究. 2024, 36, p. 21-43                                                 |
| Version Type | VoR                                                                         |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/94775">https://doi.org/10.18910/94775</a> |
| rights       |                                                                             |
| Note         |                                                                             |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 生活情報番組のディスコース・ストラテジー —固定的性別役割分業意識の容認へと導く言語的装置の分析—

Functions of discourse strategies in a daily life information TV program :  
An analysis of the linguistic devices leading viewers to accept gender role  
ideologies

西野 由起江  
NISHINO Yukie

キーワード：固定的性別役割分業意識、生活情報番組、批判的談話研究、ディスコース・ストラテジー、「主婦」  
役割

### 要旨

ジェンダー・イデオロギーを伝達する機能をもつ談話については、ジェンダー・イデオロギーが談話の中にどのように仕込まれているかを明らかにすることとは別に、視聴者がそれと気づかぬうちにジェンダー・イデオロギーを容認するよう仕向けられてしまう談話内の言語的装置（仕組み）を明らかにすることが必要になる。本稿では、テレビの生活情報番組の冒頭部分で展開される短い談話を材料に、そうした言語装置として、批判的談話研究の枠組みである「ディスコース・ストラテジー」が機能している可能性について検討した。具体的には、時間管理をテーマとする談話において、主婦を“できない主婦”と“できる主婦”に二分する「指名ストラテジー」、 “できない主婦”と“できる主婦”それぞれの特性を記述する「叙述ストラテジー」および「強調・緩和ストラテジー」、 “できない主婦”＝視聴者が“できる主婦”を見習うことの必要性・有用性を示唆する「観点化ストラテジー」、 “できる主婦”＝ “良き主婦”であることは大事であるという「主婦」役割の規範意識（固定的性別役割分業意識）を容認するよう誘導する「論証ストラテジー」が、論証ストラテジーが他のストラテジーを包括する形で機能する様子を見出すことができた。

### 1. はじめに

本稿では、テレビの生活情報番組の談話には、視聴者が（番組制作者側が前提とする）固定的性別役割分業意識<sup>1)</sup>を肯定・容認するよう導く言語的装置<sup>2)</sup>（仕組み）が組み込まれているのではないかという見通しについて、事例的な検討を行うことを目的とする。

メディアが性別役割分業意識の構築に影響を与えることについて、木村（2011）は大正時代に発刊された主婦向け雑誌による影響を指摘している。「主婦というライフスタイル、主婦という労働に関する技能や倫理の多くは、主婦向け雑誌によって育まれ、大衆に浸透していった。（略）

個と個を結ぶ空間を創出するマスメディアがとりわけ大きな役割を果たしたことが推測される」(木村 2011:25)と述べ、日本が近代化へと進む過程で誕生した主婦向け雑誌が、「主婦」という役割への規範を作り出したことを論じている。木村は「メディアが『主婦』になることを読者に強制することはあり得ない。しかし本書で取り上げた婦人雑誌が『主婦』というライフスタイル／職業に向けての社会的機能を有していたことは明白である」(木村 2011:283)と述べ、マスメディアをイデオロギーの装置<sup>3)</sup>として位置づけている。「メディアの受け手は、強制される感覚を持つことなく、しかしながら、確実にいずれかの方向に導かれ、歩みを進めていることに、いつかふと気づく」(木村 2011:283)という指摘は、雑誌がイデオロギーの装置としての機能を有していることを示している。

雑誌と同様、テレビもまたマスメディアの一つであり、イデオロギーを伝達する機能を持っていると考えられる。本稿で注目する生活情報番組も、家事や育児・介護などの生活に関わる情報を伝える談話を通して、「主婦」役割の強化につながる固定的性別役割分業意識を肯定し、視聴者がそれを容認するように導く(仕向ける)ような、暗黙の働きかけを行っている可能性がある。

これに関して、筆者はかつて、NHK 総合テレビの生活情報番組『あさイチ』10 回分の冒頭部分の談話を、社会的実践を伴う談話行動と捉え、談話の中でジェンダー・イデオロギー<sup>4)</sup>が前景化、背景化されながら肯定されていることを明らかにした(西野 2022)。そこでは、テレビの情報番組の談話にジェンダー・イデオロギーが仕込まれていることを示したが、それとは別に、視聴者がどのようにしてそうしたジェンダー・イデオロギーを容認し、信じ込むように仕向けられるのか、その仕組みについて検討するには至らなかった。

生活情報番組がジェンダー・イデオロギー(特に固定的性別役割分業意識)を伝達していると言うためには、その談話にジェンダー・イデオロギーがどのように仕込まれているかを明らかにすることとは別に、木村(2011)が言うように、視聴者がそれと気づかぬうちにジェンダー・イデオロギーを容認するよう仕向けられてしまう談話内の言語的な仕組み(装置)を明らかにすることが必要になる。本稿では、西野(2022)で取り上げた『あさイチ』のうち1 回分の冒頭部分の談話を対象として、そうした言語的装置の存在に関する事例分析を行う。

## 2. 方法論：分析の枠組み

本稿では、上述のような言語的装置の「候補」として、批判的談話研究(Critical Discourse Studies=CDS<sup>5)</sup>)の分析枠組みの1つである「ディスコース・ストラテジー(discourse strategies)」を取り上げる。

ディスコース・ストラテジー（「談話ストラテジー」とも）はCDSにおける歴史的アプローチ<sup>6)</sup>分析の枠組みの1つである。ヴォダック（2010）は、ディスコース・ストラテジーについて「1. 人々は、言語的にどのように名付けられ指示されるのか、2. その人々は、どのような特性や特徴、性質や特色を持つとされているのか、3. 特定の人々ないし社会集団は、どのような論拠や論証スキーマによって、他者を排除し、差別し、抑圧し、そして搾取することを正当化したり合法化したりするのか、4. これらのラベルや属性、論拠はどのような見地や観点から表現されるのか、5. 個々の発話は明示的に発せられるのか。それらの発話は強調されているのか、それとも軽減されているのか。これらの問いに従って、私たちは特に5つのタイプの談話ストラテジーに関心をもっているが、これらのストラテジーは全て、肯定的な自己提示と否定的な他者提示に関わる」（ヴォダック 2010:105-106）と説明している。

CDSのディスコース・ストラテジーは、言語表現が示す字義通りの意味や辞書的な意味の背後に埋め込まれている発信者側の主張に受信者を共感、または同意へと導く働きをする言語的な装置と捉えることができる。なぜなら「ストラテジーが、一定の社会的、政治的、心理的あるいは言語的ゴールを達成するために採用された、ある程度意図的な実践プランを意味する。ディスコース・ストラテジーは、さまざまなレベルの言語組織や複雑なものに見いだされる」（ヴォダック、ライジゲル 2015:47）と説明され「ゴールを達成するため」の装置として用いられているからである。

ヴォダック（2010）による5つのタイプのディスコース・ストラテジーについて、神田（2017）は「書き手が意図していることや、表立って述べてはいないが潜在的に持っている評価などが読み取れる」（神田 2017:93-94）と説明し、ディスコース・ストラテジーを、言語表現に組みこまれた発信者の主張を受け手に信じ込ませる言語的な装置として扱っている。神田（2015）は、ディスコース・ストラテジーについて Wodak（2001）、Reisigl and Wodak（2009）による説明をもとに<sup>7)</sup>、各ストラテジーの対象、装置の詳細を以下のようにまとめている。例は、神田（2015）が原発問題を取り上げる新聞記事を対象として行った分析の中で、ある事柄や事態はどのように表現されているのか、どのような観点で発信されているのかを問う必要のある言語表現の例としてあげたものである。

#### i. 指名ストラテジー

対象：社会的行為者、対象／現象／出来事および過程／行為の談話的構造

装置：・メンバーのカテゴリー化装置、直示体系、名前の呼び方

・メタファー、メトニミー、シネクドキといった文彩

例) パンドラの箱／必要悪／資源小国

## ii. 叙述ストラテジー

対象：社会的行為者、対象、現象、出来事／過程および行為の談話的修飾語

装置：・否定または肯定的な性向を示すステレオタイプな評価的形容語（形容詞、並置、前置詞句、関係節、分詞句や句）

・明示的述語または叙述的名詞、形容詞、代名詞

・コロケーション

・明示的比較、直喩、メタファー、およびその他の修辭的表象（メトニミー、誇張、緩徐法）

・ほのめかし、喚起、前提、含意

例) 無責任な政策／～ことは残念でならない／見積もりが過大で非現実的だ／発言は見識に欠ける

## iii. 論証ストラテジー

対象：真実または規範的公正さの主張に対する疑義や正当化

装置：・トポス (topoi)：結論と根拠を結びつける内容上の理由づけ、または結論規則。

「X なら y である」「y である。なぜなら X だから」という条件節または原因節で表される」

・虚偽 (fallacy)：憐みに訴える論証、大衆に訴える論証、権威に訴える論証、個人に訴える論証など

## iv. 観点化ストラテジー

対象：話し手または書き手の観点の位置づけおよび係わり合いと距離の表現

装置：・直示体系、直接・間接話法、自由話法

・引用符、ディスコースマーカー、心態詞、メタファー／プロソディ

例) 国民が知りたいことは／火力発電でカバーするという／国富

## v. 強調と緩和ストラテジー

対象：発話の力、および発話の認識的、義務的状況の調整

装置：・縮小辞、拡大辞

・心態詞、付加疑問文、假定法、口ごもり、曖昧表現

・誇張、緩徐法

・間接発話行為

・発話、感情、思考の動詞

例) 安全が確認されれば／3.6 兆円にも／巨額

(神田 2015:161 参照)

CDS では、分析対象とするテキストの背景にある社会問題や歴史的背景などを勘案して分析することを提案している。この立場をとりながら神田は「言語的観点からの分析とは何か」（神田 2015:159）と問い、テキストの中でどのディスコース・ストラテジーが選択されているのかを明らかにすることでこの問いに答えようとしている。

### 3. 先行研究：気候変動に関する記事の分析（ヴォダック、ライジグル 2015）

ヴォダック、ライジグル（2015）は雑誌のオンライン記事を対象として分析を行い、記事に書かれている主張に含まれる権力や組織の意図を明らかにしている。分析では、（他のディスコース・ストラテジーが含まれる）論証ストラテジーによって、読者が談話に含まれる権力側の主張に同意し、賛同に導かれる仕組みを論じている。

論証ストラテジーとは「議論学にのっとったもので、『トポスまたは虚偽』（*topoi or fallacy*）が議論の根拠として用いられる。『トポス』とは、検討すべき問題を考察するために一般的に使われる論理や方法という意味」（神田 2015:162）のことで、ヴォダック（2010）ではトポスについて「議論学の理論において、『トポス』あるいは『場』は義務的で、明示的かまたは推測可能な前提に属する論証の一部と記述することができる。トポスあるいは場は、結論つまり主張（一つまたは複数の）論拠を結びつける、内容上の理由付けまたは「結論規則である」（ヴォダック 2010:106）と記している。トポスは、言語的な装置として談話の中で想定されたある事柄を結論まで結びつけるための理由付けを誘発し、論証するための装置であると考えられることができる。

トポスの種類をヴォダック（2010:107. 表 4.2）は、「有利性、有用性のトポス」「無用性、不利性のトポス」「定義のトポス・名前の解釈のトポス」「危険のトポス、脅威のトポス」「人道主義のトポス」「正義のトポス」「責任のトポス」「負担または負荷の軽減のトポス」「財政のトポス」「現実のトポス」「数のトポス」「法のトポスと権利のトポス」「歴史のトポス」「文化のトポス」「悪用のトポス」に分類して示している。例えば「『定義のトポス、名前の解釈のトポス』の場合、『もし人が X となづけられたなら、その人は X の（字義通りの）意味が含意する性質や特性、属性を持つはずである』と解釈する。具体的には、オーストリアの移民労働者が『ゲストワーカー』と呼ばれるなら、文字通りの意味が『客としての労働者』であることから、彼らは自分の母国に帰らなければならない、という結論になることを暗に意味している」（神田 2015:162）と解釈される。

ヴォダック、ライジグル（2015）は、論証ストラテジーのみを扱う理由として「指名や叙述のような別のストラテジー（それについても考慮はするが）は論証の中に統合され、（略）テ

クストが持つ説得という目的の下位に置かれるからである。私たちの論証分析に関する観察は、純粋に言語的な地平を超えた標準的な中間域理論がいかに具体的分析に応用されうるかの例証となる」(ヴォダック、ライジグル 2015:49)と述べ、他のディスコース・ストラテジーについては項目別に示し、用例をあげるだけにとどめている。彼らの分析は、論証ストラテジーが他のディスコース・ストラテジーを包含し、人々を論理的な解釈へと導くことを論じるものである。論証に向かう段階において、ヴォダック、ライジグル(2015)は、分析対象とする記事に含まれているディスコース・ストラテジーとその言語表現を上げているが、詳しい解説は論証ストラテジーに関わるものだけを対象にしている。以下の各ストラテジーの説明と例は、ヴォダック、ライジグル(2015)の記述であるが、言語的な装置としての機能についての解釈は筆者の見解である。

「指名ストラテジー」の、人(社会的行為者)「科学者」の例では、地球温暖化が人為的であると主張するために「科学者」という語を用い、この語に付与された権威が主張の正当性を示す根拠となり、「科学者」は指名ストラテジーとして機能する。モノ／現象／事象では、具体的な例と抽象的な例に分けている。具体的なモノの例「世界」は、「世界の終わりか?」(ヴォダック、ライジグル 2015:58)という文脈で用いられ、地球環境＝世界であり、そこに住む人々を包含する「指名ストラテジー」として用いられていると捉えることができ、記事の読み手は脅威を感じる。

「叙述ストラテジー」での社会的行為者である「私たち」は、「私たち(＝人間):おしまいだ、みんな死ぬんだ」(ヴォダック、ライジグル 2015:61)という文脈で用いられることで、否定的な評価を「私たち(＝人間)」に与え不安を煽っている。事象の例「気候変動:世界の終わり／崩壊へと導く」(ヴォダック、ライジグル 2015:61)などの気候変動に関する否定的な評価は、叙述ストラテジーを用いることで人々を不安な気持ちへと導く。

「観点化ストラテジー」では、記事を書いた記者が、科学者に「一流」という評価的修飾語を付け、権威に訴える論証を行おうとしている。記者は、科学者の見解の一部に言及し、このことを根拠として終末論的な特徴の記事に埋め込んでいる。書き手は、メタンガスの排出などの過剰な消費が、地球温暖化を進行させることを懸念するという観点から当該記事を発信しているが、科学者の見解を持ち出して終末論に結びつけようとしている。記者(書き手)の観点は、科学的根拠または科学者に対する権威的な見方を利用して地球温暖化を懸念することは正しいことだ、という意識を読み手に求めるものである。

「緩和ストラテジーと強調ストラテジー」では、「強調:北極圏の海底炭素がごくわずかでも漏れ出したら、わたしたちはもうおしまいだ」(ヴォダック、ライジグル 2015:61)で「ごくわずか」と強調することで、脅威であるという認識を伝えている。義務的な例「緩和:北極は

過去において幾度となく解氷期を迎えていたが、それでも今、私たちは生きています、そこまで心配することはないでしょう」(ヴォダック、ライジグル 2015:62) では、「そこまで心配することはないでしょう」という緩和表現によって、一般の人たち(読者)は心配する必要はないと訴えている。地球温暖化が世界の終わりを招くという終末論に結び付けながら不安を煽る発信を行う一方、わざわざ緩和表現を用いて、不安を煽る記事を書いた事柄に対する責任を回避していると捉えることができる。

「論証ストラテジー」は、上記のストラテジーを包含し、読者に対する真理性と規範的正当性の要求を納得させるために用いられている。「真理性要求：気候変動の存在、原因、影響、回避に関して。(略) 正当性要求：気候変動に関する人間の行為に関して」(ヴォダック、ライジグル 2015:62) を明らかにする手段としている。論拠(最初の前提)、結論規則、これらから真理性要求が示される例として「論拠：一流の科学者が『私たちはもう…!』と暴露する。結論規則：もし一流の科学者が『私たちはもう…!』と言うなら世界の終わりが近づいているのかという疑念が生じる。真理性要求：世界の終わりが近づいているかを問わなければならない」(ヴォダック、ライジグル 2015:67) と説明している。ヴォダック、ライジグル(2015)での論証ストラテジーを用いて真理性要求を示す過程では、「指名ストラテジー」による“一流の科学者”、「叙述ストラテジー」による“私たちはもう”がどのような働きかけを読み手に対して行っているのかの説明はない。これらのストラテジーは「論証ストラテジー」に組み入れられていると解釈するべきであろう。

ヴォダック、ライジグル(2015)は、「気候変動」は日常社会では「地球温暖化」を意味することが多く、「地球温暖化」(＝気候変動)と現代社会には因果関係があり、人為的な温室効果ガスの排出などが、地球(人類)の終末を招く、だからこのような事態(環境への影響)を憂慮しなければならない、という記事を分析している。このような結論へと導くトポスを分類し、論証ストラテジーの流れを明らかにしている。「～なのだから、～である」という論証は、言語表現から読み取れる。しかし、読み手を信じ込ませる装置として言語表現に埋め込まれている個別のストラテジーの機能は論証ストラテジーに含まれ、詳細な説明は行われていない。

#### 4. データ：分析対象とする番組と談話

分析対象とするデータは、NHK 総合テレビで 2016 年 4 月 27 日に放送された生活情報番組『あさイチ』の『のぞいてみました!あの人のタイムスケジュール』をテーマとする回の番組放送開始直後の冒頭部分の談話(3 分 52 秒)である。以下、この談話を「冒頭談話」と呼ぶ。

『あさイチ』は、毎週月曜日～金曜日の午前 8 時 15 分～午前 9 時 54 分(放送当時)に放送され、

日本全国で同時刻に視聴可能である。データ収集当時の『あさイチ』のホームページには“主婦の皆さんが一番気になるテーマを毎日ピックアップ”<sup>8)</sup>と明記されていた。現在、当該番組のホームページから「主婦」という表現は削除されている。しかし、進行役が交代した今でも生活情報として実用的なテーマ（家計管理、料理・掃除などの家事全般、女性の生き方、子育て・介護など家族に関することなど）がメインテーマとして取り上げられている。

この回の放送は、(一)番組冒頭 VTR1、VTR2、VTR3、(二)スタジオ内会話 1、(三)取材 VTR4、(四)スタジオ内会話 2、(五)取材 VTR5、(六)スタジオ内会話 3、の 6 場面に切り替わり構成されている。本稿では、(一)番組冒頭部分の談話の分析を行う。番組冒頭部分は、当該番組の視聴時間に忙しくしている主婦に対して、メインテーマへの関心を向けるためのいわゆる「呼び込み」の部分である。

進行役は、データ収集当時 NHK 所属であった女性アナウンサー、男性タレント、収録当時 NHK 解説委員であった男性である。情報の説明部分では、ナレーターまたはコーナー進行役として別のアナウンサー（女性）が起用され、取材 VTR が挿入される。スタジオでは女性タレント 3 人（冒頭談話での発話は 2 人）も加わり、メインテーマに関する情報が送り出される。

対象とする冒頭談話は、3 つの VTR 場面から構成されている。最初の VTR1 では、一般人の家庭の朝のリビングでの主婦の様子が映し出され、続く VTR2 では一般の女性 3 人のインタビューが映し出される。それぞれが映し出されている間、女性ナレーターによる状況説明の音声流れる。つづく VTR3 では VTR1 とは別の二つの家庭のそれぞれの主婦の様子が映し出される。

以下に、冒頭談話を文字化したデータを示す。このデータは、NHK 番組アーカイブス学術利用トライアル（2016 年 9 月～10 月）を利用し、当該番組の録画を NHK 大阪放送局内にて閲覧して文字化および内容の確認を行ったものである。

文字化データでは、冒頭の [ ] 内に、話者の属性と性別（女性を f、男性を m）を示し、属性と性別が同じ話者が複数いる場合はそれぞれの識別番号もしくは記号を付記した。属性には、石井（2013）の職業的な分類（[1] アナウンサー類、[2] タレント類、[3] 専門家類、[4] 一般人類）を採用する（進行役、ナレーターはアナウンサー類に含める）。また、性別のあとにメインの進行役女性アナウンサーにはイニシャル U を付記して [1fU] とし、ナレーターの女性アナウンサーにはナを付記して [1fナ] とする。進行役に加わる男性解説者は、専門家類の性質をもつため [1m3] と記し、属性の特性を示す。タレント類 [2] では分類番号、性別のあとにイニシャルを付記し [2fT] などとした。一般人類 [4] は性別のあとに話者が異なることを示すための識別記号 a.b.c…を付記し [4fa] などとする。

発話は、概ね「文」ごとに改行し、冒頭に①～④の番号を付している。（ ）内の発話は、

VTR を見ているスタジオ内の出演者の音声である。全体として、言い間違い、言いよどみはそのまま文字化したのが、あいさつなどの短い発話は情報発信に影響を及ぼさないため省いている。なお、発話内に出現する個人名は職業的な分類、性別、イニシャルに置き換え 2fS、2fT などと示している。

### 冒頭談話の文字化データ

(VTR1 開始)

001 [1f ナ]

- ①本日も「あさイチ」をご覧くださいありがとうございます。
- ②忙しい朝の間に誠にありがとうございます。
- ③例えばこちら、主婦の K さん。
- ④毎朝 5 時に起きて朝食の準備をしています。
- ([2fS] ⑤はやっ、はや)
- ⑥ゆったりと朝ごはんを食べようと思っても。
- ⑦あーあとちょっとだったのに。
- ⑧やっぱりのドタバタモーニングに突入。
- ⑨育ち盛りの子どもが 3 人、授乳をしたり、子どもの勉強を見てあげたり。
- ⑩せっかく早起きしたのに思い通りに朝を過ごすのって、むずかしいですよー。
- ⑪さー、ってことで今日のテーマはタイムスケジュール、雑誌でもよく取り上げられる  
できる女の時間術。
- ⑫羨ましいとは思うけど、なかなか真似できないんですよー。

(VTR1 終了)

(VTR2 開始)

002 [4fa]

- ⑬主婦向けの雑誌ってのによく載ってらっしゃるから。
- ⑭ちょっと現実的とはちょっと違う。
- ([1f ナ] ⑮ですよー)

003 [4fb]

- ⑯やっぱり、お友達でもすぐ髪の毛くるくるって巻いてきて。
- ⑰いつやる時間あるのって。
- ([1f ナ] ⑱ですよー)

004 [4fc]

⑭いっぱい離乳食はじまりましたーって、何品も何品も載せてあって。

⑮でも実際に言って、そんな離乳食何品も作る時間がないよ。

(VTR2 終了)

(VTR3 開始)

005 [1f ナ]

⑰本当にみんなタイムスケジュール通りうまくやってるのかしら。

⑱もし本当なら、実際にやっているところ見せてほしー。

⑲ことで、気になるあの人たちに定点カメラをしかけ 24 時間のぞいてみちゃいました。

⑳例えば 3 人の子どもを持つこちらの主婦。

㉑毎日おかずたっぷりの朝ごはん。

㉒これ 20 分で作っています。

㉓これだけじゃありません。

([1m] ㉔朝ドラ見てる余裕あるんですねー)

㉕毎日朝ドラの世界にがっつり浸る優雅ぶり。

㉖秘訣はたった 1 つ、あることを決めただけなんです。

([1fU] ㉗なんだろう)

㉘さらにこちら正社員として働いているママさん。

㉙朝食は、2 人の子どもと夫、家族みんなでゆっくり。

㉚しかも夜の 7 時半には全ての家事が終了。

㉛毎夜、家族団らんです。

([2fS] ㉜うそでしょ)

㉝ほんとです。

㉞実はみなさんもあれをやめるだけでイライラする忙しさからぬけ出せるんです。

([1fU] ㉟なにー)

㊱さあそして、この人もプライベートを大公開。

㊲そう今大人気の 2fT さん。

([2fT] ㊳外はまだ暗いんですけど)

㊴いったいこれは何をしているのか。

㊵それはこの後のお楽しみでーす。

(VTR3 終了)

## 5. 分析：ディスコース・ストラテジーの機能

以下、ディスコース・ストラテジーが談話の中でどのように機能しているのかを、5つのストラテジーごとに見ていく。

### 5.1. 指名ストラテジー

指名ストラテジーとは、「人々は、言語的にどのように名付けられ指示されるのか」（ヴォダック 2010:105-106）という問いにかかわる言語的装置である。神田（2017:92）は、この問いを「ある事物や事柄は書き手によってどのように呼ばれているか」と説明している。

冒頭談話では、まず③で「主婦の K さん」が登場する。VTR 内の家のリビングにいる女性「主婦の K さん」は一般的な「主婦」として指名されている。一般女性を「主婦の～」と呼び VTR で紹介することで、視聴者は自分たちと同じ属性（立場）の人だと認識し共感へと導かれると考えられる。

一方、⑪では「できる女」という名づけが登場する。これは、上で「主婦」と指名された「K さん」のような「一般的な主婦」のことではない。続く⑫で「羨ましい」「なかなか真似できない」ともあるように、「できる女」とは特別な技能をもつ優れた人物を指す権威的な名づけであり、VTR2 で登場するインタビューたちの発話（⑬～⑳）にも見られるように、視聴者がそれに自らを重ねることはない。

⑪の発話で明言されているように、ここでの「できる女」とは「時間術」を有する、すなわち「時間管理ができる」人であり、一方で「K さん」のような「主婦」は「時間管理ができない人」として指名されていることになる。VTR1 および VTR2 では、「主婦」と「できる女」とは、時間管理が“できない人”と“できる人”とを二分するための名づけとして働いているといえる。

しかし、VTR3 では、「できる女」は、㉓で「気になるあの人たち」とも呼ばれた後、続く㉔では「3 人の子どもを持つこちらの主婦」、㉕では「正社員として働いているママさん」というように、「主婦」「ママさん」とも指名されている。つまり、「できる女」もまた「主婦」なのである。これによって、視聴者は「できる女」もまた自分たちと同じ属性（立場）の人だと認識する。この認識は、視聴者に、自分たちも工夫（努力）次第で「できる女」になれる（＝時間管理ができるようになる）かもしれないという期待ないし意欲を抱かせることにつながり、それによって番組のテーマ（タイムスケジュール、時間術）に対する視聴者の関心をより高めるという効果をもたらすものと考えられる。

要するに、冒頭談話における指名ストラテジーは、主婦を時間管理が“できない主婦”（一般

の「主婦」と“できる主婦”（「できる女」）の二つのカテゴリーに分けつつ、視聴者に前者に対する共感および後者に対する羨望を喚起し、それによって番組テーマへの関心を抱かせ呼び込むという機能を果たしているのである。そして、この作用は、後述するように、視聴者に「主婦」としての基本的な役割意識の共有を促すことにつながっていると考えられる。

なお、指名ストラテジーは人以外の事物に対する名づけにも及ぶとされ、冒頭談話においても、⑧の「ドタバタモーニング」、②⑨の「優雅ぶり」などは、“できない主婦”と“できる主婦”それぞれの特徴を示す名づけとして機能していると考えられるが、これらは基本的に次項の「叙述ストラテジー」によるものと考えたい。一方で、③⑩の「秘訣」、③⑧の「あれ」は、“できる主婦”の「時間術」の一端を表す名づけとして機能しており、事物に対する指名ストラテジーと考えてよいだろう。これらは、後述するように、論証ストラテジーの素材として機能すると考えられる。

## 5.2. 叙述ストラテジー

叙述ストラテジーとは、「その人々（引用者注：指名ストラテジーで名付けられ指示されている人々）は、どのような特性や特徴、性質や特色を持つとされているのか」（ヴォダック 2010:105-106）という問いにかかわる言語的装置である。神田（2017:92）は、この問いを「ある事物や事柄はどのように描写されているか」と説明している。

冒頭談話では、指名ストラテジーによって二分（カテゴリー化）された（時間管理が）“できない主婦”と“できる主婦”それぞれの特性が、叙述ストラテジーの述語的、属性規定的な叙述によって表され、明確化される。

まず、“できない主婦”の特性については、以下のような叙述がなされている。

- ⑨「育ち盛りの子どもが3人、授乳をしたり、子どもの勉強を見てあげたり」
- ⑧「やっばりのドタバタモーニングに突入」
- ⑩「せっかく早起きしたのに思い通りに朝を過ごすのって、むずかしい」
- ③⑧「実はみなさんもあれをやめるだけでイライラする忙しさからぬけ出せるんです」

これらは、いずれも“できない主婦”は「忙しい」、そして、それ故に「時間管理ができない」という特性をもつことを叙述している。⑨では、「育ち盛りの子ども」というステレオタイプの表現を使って食事作りや世話に手がかることを示し、さらに3人いることで時間管理が難しいということを暗示している。「～したり、～したり」という表現は、次から次へと（＝忙しく）子育てに関わる作業を担っていることを示している。⑧では、忙しい朝を「ドタバタモーニング」

と形容することで、“できない主婦”は、あわただしさに翻弄され、自分の意思ではなくその状態に「突入」する（＝陥る）ことが示されている。⑩でも、“できない主婦”は、努力はしても「思い通り」にならないことが示され、③⑧では、“できない主婦”は「忙しさ」のために「イライラしている」ことが示される。

ただし、“できない主婦”の叙述からは、「主婦の役割を果たしている（果たそうと努力している）」という特性も浮かび上がってくる。④では、「毎朝 5 時に起きて朝食の準備をしている」ことが紹介され、⑤でそのことに感嘆したスタジオ内出演者の「はやっ、はや」という感嘆の声を挿入することで、“できない主婦”が（時間管理はできないものの）「主婦」の役割を果たしていることを評価的に叙述している。上でみた⑨「育ち盛りの子どもが 3 人、授乳をしたり、子どもの勉強を見てあげたり」という叙述も、同様の特性を示していると考えられる。

一方、“できる主婦”については、まず、以下の下線部のように“できない主婦”と同じ境遇にあることが叙述される。

②④例えば 3 人の子どもを持つこちらの主婦。

③②さらにこちら 正社員として働いているママさん。

その上で、“できる主婦”（できる女）の特性については、以下のような叙述がなされている。

②⑤～②⑥「毎日おかずたっぷりの朝ごはん。これ 20 分で作っています」

②⑨「毎日朝ドラの世界にがっつり浸る優雅ぶり」

③③～③④「朝食は、2 人の子どもと夫、家族みんなでゆっくり。しかも夜の 7 時半には全ての家事が終了」

これらは、いずれも“できる主婦”は「手際が良い」、そして、それ故に「忙しさから解放されている」という特性をもつことを叙述している。②⑤～②⑥では、子どもが 3 人いることで与えられる忙しさは“できない主婦”と同じであるが（②④），“できる主婦”は、忙しくても栄養価が高そうで、あるいはバランスがよさそうな朝ごはんを毎日欠かさず手際良く作りつづけることができるとしている。②⑨では、時間に追われずテレビドラマの世界に浸れる状態を「優雅」と叙述することで、忙しい朝に自分の時間を持てる（＝忙しさから解放されている）“できる主婦”の特性を評価的に描写している。③③～③④でも、「家族みんなでゆっくり」「全ての家事が終了」などと、“できる主婦”の手際の良さと忙しさから解放されている様子を、その特性として評価的に叙述している。なお、こうした特性が評価すべき特性であることは、②⑧「朝ドラ見てる余

裕あるんですねー」、③⑥「うそでしょ」といったスタジオ内出演者の発話によってさらに強化される。

以上のように、冒頭談話における叙述ストラテジーは、時間管理が“できない主婦”と“できる主婦”が同じ境遇にある＝同じ「主婦」であることを確認した上で、それぞれの特性を明確化する働きをしている。ただし、これらの特性は客観的に叙述されているわけではなく、“できない主婦”が主婦としての役割を果たそうとしていることについては共感しつつも、“できる主婦”の特性を優れたものとして評価する、という方向で叙述されている。こうした評価的な叙述は、後述する観点化ストラテジーや論証ストラテジーに組み込まれていく側面をもっていると考えられる。

### 5.3. 強調・緩和ストラテジー

強調・緩和ストラテジーとは、「個々の発話は明示的に発せられるのか。それらの発話は強調されているのか、それとも軽減されているのか」（ヴォダック 2010:105-106）という問いにかかわる言語的装置である。神田（2017:93）は、この問いを「主張はどのように強調されたり緩和されたりしているか」と説明している。

冒頭談話では、叙述ストラテジーによって明確化された“できない主婦”“できる主婦”それぞれの特性が、このストラテジーによって強調されたり、緩和されたりする。

まず、“できない主婦”については、「忙しい」という特性が強調され、「時間管理ができない」という特性は緩和される。

前者については、上述した⑧の「ドタバタモーニングに突入」、同じく⑨の「～したり、～したり」という表現が当てはまる。

後者については、同じ⑧「やっばりのドタバタモーニングに突入」の「やっばり」が、子育て中の主婦なら誰もが時間どおりに過ごせない（＝時間管理ができない）ことを含意することで、“できない主婦”である「Kさん」が時間管理できないことを緩和している。また、⑩の「思い通りに朝を過ごすのって、むずかしいですよー」、⑫の「羨ましいとは思うけど、なかなか真似できないんですよー」も、時間管理の難しさを強調することで、時間管理ができないことをやむを得ないこととして緩和している。

一方、“できる主婦”については、以下の発話の下線部の表現によって、「手際が良い」「忙しさから解放されている」という特性が強調されることがもっぱらである。

⑪「いっぱい離乳食はじまりましたーって、何品も何品も載せてあって」

⑭～⑰「例えば 3人 の子どもを持つこちらの主婦。毎日おかずたっぷりの朝ごはん。これ

20分で作っています。これだけじゃありません」

②⑨「毎日朝ドラの世界にがっつり浸る優雅ぶり」

③④～③⑤「しかも夜の7時半には全ての家事が終了。毎夜、家族団らんです」

以上、“できない主婦”“できる主婦”の特性がどのように強調ないし緩和されているかを確認したが、これとは別に、事物に対する指名ストラテジーによる「秘訣」「あれ」という名づけに対して、以下の下線部のように強調ストラテジーが作用していることが注目される。4.1の最後でも述べたように、これらは論証ストラテジーに組み込まれていく。

③⑩「秘訣はたった1つ、あることを決めただけなんです」

③⑧「実はみなさんもあれをやめるだけでイライラする忙しさからぬけ出せるんです。

#### 5.4. 観点化ストラテジー

観点化ストラテジーとは、「これらのラベルや属性、論拠（引用者注：指名ストラテジーによるラベル、叙述ストラテジーによる属性、論証ストラテジーによる論拠）はどのような見地や観点から表現されるのか」（ヴォダック 2010:105-106）という問いにかかわる言語的装置である。神田（2017:93）は、この問いを「どのような立場から述べられているか」と説明している。

冒頭談話における観点化ストラテジーとは、基本的に、生活情報番組の一義的な情報提供者である番組制作者側が、自らの立場や前提とする考え方などを発話に反映させること、ととらえることができる。したがって、この談話の場合、そうした発話は、以下のように、ナレーターによってなされることになる。

③⑩「せっかく早起きしたのに思い通りに朝を過ごすのって、むずかしいですよー」

③⑩「羨ましいとは思うけど、なかなか真似できないんですよー」

③⑩～③⑩「本当にみんなタイムスケジュール通りうまくやってるのかしら。もし本当なら、実際にやっているところ見せてほしい」

③⑩「秘訣はたった1つ、あることを決めただけなんです」

③⑧「実はみなさんもあれをやめるだけでイライラする忙しさからぬけ出せるんです」

このうち、③⑩は、一般の「主婦」にとって時間管理が難しいことを述べたものだが、これは“できない主婦”の特性を示す叙述ストラテジーによるものであると同時に、番組制作者側の「一般の主婦に時間管理は難しい」という前提的な認識をナレーションによって提示し、さらに、

それについて「～ですよー」という文末形式で視聴者に同意・共感を求める発話になっている。  
⑫もまた、「一般の主婦が時間管理の“できる主婦”を真似ることは難しい」という番組制作者側の前提的な認識を提示し、同じ「～ですよー」という文末形式で視聴者に同意・共感を求める発話になっている。

一方、⑭～⑯は、疑問文・希求文の形をとっているが、これは番組制作者側の疑問・希求を提示したというより、視聴者の疑問・希求を番組制作者側が代弁したと考える方が適切であろう。したがって、この発話においては、番組制作者側は視聴者の立場に立っており、自らの立場は背景化させているといえるだろう。

また、これらとは別に、⑳は、“できる主婦”の時間管理術には「秘訣」があり、それも「たった1つ」であることを述べているのだが、これは、一義的な情報提供者である番組制作者側が本来の立場に立って視聴者に予告的な情報提示を行った発話であると考えられる。同様に㉑も、「忙しさからぬけ出せる」方法があることを視聴者に予告的に提示しているのだが、この発話では、番組制作者側は視聴者の「みなさん」を「イライラする忙しさ」に陥っている“できない主婦”と見なしていることがわかる。そのように考えれば、㉑の発話も同様の「見なし」の下で行われているといえるだろう。

以上のように、観点化ストラテジーにおいては、番組制作者が自らの立場や前提とする考え方などを発話に反映させるのだが、そこには必ず視聴者がかかわっていることがわかる。自らの前提的認識を提示して視聴者に同意・共感を求めたり、自らの疑問・希求を視聴者のものとして代弁する形をとったり、視聴者を“できない主婦”と見なして解決法があるという情報を予告的に提示したり、という具合である。観点化ストラテジーによるこうした一連の発話を通して、番組制作者側は、“できない主婦”である視聴者が“できる主婦”の時間管理術を学ぶことの必要性・有用性を示唆しているように思われるが、それは次項の論証ストラテジーにおいて明示されることになる。

## 5.5. 論証ストラテジー

論証ストラテジーとは、「特定の人々ないし社会集団は、どのような論拠や論証スキーマによって、他者を排除し、差別し、抑圧し、そして搾取することを正当化したり合法化したりするのか」（ヴォダック 2010:105-106）という問いにかかわる言語的装置である。神田（2017:92）は、この問いを「どのような論拠を用いて議論されているか」と説明している。

2節で紹介したように、ディスコース・ストラテジーは、言語表現が示す字義通りの意味や辞書的な意味の背後に埋め込まれている発信者側の主張に受信者を共感、または同意へと導く働きをする言語的な装置と捉えることができるが、3節で紹介したように、その中核は、他のディ

スコース・ストラテジーを包含し、人々を論理的な解釈へと導く論証ストラテジーであるとされている。

論証や説得を目的としていない生活情報番組の談話においても、談話の中に明示されていない論理を視聴者が理解し、受け入れるようにする働きは、他のストラテジーを動員しながらも、直接的にはこの論証ストラテジーが担うものと考えられる。このようにして、論証ストラテジーが冒頭談話の中に築いている「論証」には、少なくとも次の3つがあると考えられる。視聴者はこれらを自然な論理として、あるいは、それと気づかないままに容認するよう仕向けられている可能性がある。

#### 論証1《時間管理をすることは大事だという論証ストラテジー》

論拠：主婦の朝は忙しい

結論規則：家事・育児に工夫をする必要がある

真理性要求：時間管理をすることは大事だ

この論証の流れは、冒頭談話全体の基礎として組み入れられていると考えられる。番組では主婦の朝の忙しさを解決することを目的として掲げている。この解決策への関心を引き寄せるために用いられる論証ストラテジーは、主婦の朝は忙しいという論拠を示し、主婦が役割として担っている「家事・育児を工夫する」ならば、忙しさは解消されるという結論規則が示される。なぜならば、時間管理をすることは大事だと見なされているからである。論証ストラテジーは、視聴者に対して求める真理性「時間管理をすることは大事」を正当なこととして信じこませる働きをする可能性がある。以下に、この論証に用いられたトポス<sup>9)</sup>の種類と説明、トポスの流れを示す。

③「主婦のKさん」、④「毎朝5時に起きて朝食の準備をしています」、⑨「育ち盛りの子どもが3人、授乳をしたり、子どもの勉強を見てあげたり」

…（【現実のトポス】：それが現実なのだから、やらなければならない）

↓

⑪「雑誌でもよく取り上げられるできる女の時間術」、⑩「秘訣はたった1つ、あることを決めただけなんです」、③⑧「実はみなさんもあれをやめるだけでイライラする忙しさから抜け出せるんです」

…（【有利性・有用性のトポス】：ある特定の重要な観点からみて、ある行為が有用であれば、人はそれを遂行すべきである）

この談話の流れの中では、視聴者に対して情報の真理性（あるいは正当性）を信じ込ませるためのトポスによる論証ストラテジーが用いられるものと考えられる。

論証 2 ≪「家族との時間」「自分の時間の確保」は大事だという論証ストラテジー≫

論拠：主婦は家事・育児の担い手である

結論規則：家族との時間、自分の時間を確保するには工夫が必要だ

真理性要求：家族と過ごす時間、自分のための時間は大事だ

論拠として「主婦」の役割が規定されると、家事・育児は主婦が当然担うべき役割だと見なされる。その上で「やらなければならない家事・育児であっても工夫」が必要である。なぜならば「家族や自分の時間を確保することは大事である」ことの正当性を信じ込ませようとしているからである。この論証は以下の流れを辿ると考えられる。

③「主婦の K さん」

…【定義のトポス・名前の解釈のトポス】：X（ここでは主婦）と名付けられたり指定されたなら、その行為、物事、あるいは X（主婦）が含意する性質や特性、属性を持つ）

↓

④「毎朝 5 時に起きて朝食の準備をしています」、⑨「育ち盛りの子どもが 3 人、授乳をしたり、子どもの勉強を見てあげたり」、⑩「離乳食何品も作る時間がないよ」

…【現実のトポス】：現実がその通りであるのだからある特定の行為がなされなければならない）

↓

⑤「毎日おかずたっぷりの朝ごはん」、⑥「これ 20 分で作っています」、⑦「秘訣はたった一つ、あることを決めただけなんです」

…【有利性・有用性のトポス】：ある特定の重要な観点からみて、ある行為が有用であれば、人はそれを遂行すべきである）

↓

⑧「正社員として働いているママさん」、⑧「朝食は、2 人の子どもと夫、家族みんなでゆっくり」、⑨「しかも 7 時には全ての家事が終了」、⑩「毎夜、家族団らんです」

…【有利性・有用性のトポス】：ある特定の重要な観点から見て、ある行為が有用であれば、人はそれを遂行すべきである）

主婦は【定義のトポス・名前の解釈のトポス】によって、主婦と指定されたのだから、家事育児を担う性質をもっているものとして指定され、【現実のトポス】が働くことで、これらのことを担わなければならないという解釈を容認するように仕向けられる。家族との時間を確保することは大事である。そのためには、「できる女」と呼ばれる時間管理が“できている主婦”「良き主婦」の行いから学び、実行するべきであるという【有利性・有用性のトポス】が作用し、家族と過ごす時間や自分の時間を確保することが重要だという観点から、そのようにすべきであると導く【有利性・有用性のトポス】が追加される。

冒頭での談話において、主婦の役割が明示的に示されているわけではない。しかし、時間管理ができることを良いこととして扱う流れの中で、「できる女」を目指すことが良いことだと信じ込ませるために論証ストラテジーが用いられると考えられる。

### 論証3 ≪良き「主婦」であることは大事だという論証ストラテジー≫

論拠：「できる女」は時間管理ができる

結論規則：良き「主婦」になるには「できる女」を見習わなければならない

真理性要求：良き「主婦」であることは大事だ

主婦の中でも時間管理が「できる女」は常に肯定的に捉えられ、優れた主婦として扱われる。優れた「良き主婦」になるためには「できる女」を見習わなければならない。視聴者には「良き主婦」であることは大事である、という真理性（正しいこととして）を認め、受け入れることが求められる。この真理性を認めさせるために用いられるトポスは以下のように考えることができる。

⑪「雑誌でもよく取り上げられるできる女の時間術」、⑫「髪の毛くるくるって巻いてきて」、⑬「いつやる時間あるのって」、⑭「いっぱい離乳食はじまりましたーって、何品も何品も載せてあって」、⑮「3人の子どもをもつこちらの主婦。毎日おかずたっぷりの朝ごはん。これ20分でつくっています」、⑯「毎日朝ドラの世界にがっつり浸る優雅ぶり」  
 …【定義のトポス・名前の解釈のトポス】：もしある行為、物事、あるいは人がX(ここでは「できる女」と名付けられ指定されたなら、その行為、物事、あるいは人はX(=「できる女」)の字義通りの意味が含意する性質や特性、属性を持つ、もしくは持っているはずである)

↓

⑰「羨ましいとは思いますが、なかなか真似できないんですねー」

…【有利性・有用性のトポス】：ある特定の重要な観点からみて、ある行為が有用であれば、

人はそれを遂行すべきである)



③「正社員として働いているママさん」、③「朝食は、2人の子どもと夫、家族みんなでゆっくり」、③「毎夜、家族団らんです」

…(【有利性・有用性のトポス】:ある特定の重要な観点からみて、ある行為が有用であれば、人はそれを遂行すべきである)

「できる女」と名付けられる理由として、雑誌で取り上げられるほどの優れた時間術をもち、おしゃれに気を配る時間があることが示される。離乳食もたくさん作り、子どもが3人いて時間をとられることが予測される中、おかずたっぷりの朝食を用意でき、毎朝ドラマを見る時間もある。このような余裕のある特性をもつ「できる女」であることは、【定義のトポス・名前の解釈のトポス】によって示される。“できない主婦”は、このような時間管理が“できる主婦”を羨ましく思うはずで、見習うべきだという番組制作者側の認識は【有利性・有用性のトポス】で示され、本当は皆「できる女」になりたいと思っているはずだと誘導する。正社員として働き、家での時間が少ない中、子どもや夫、家族との時間を確保できる、そのようになることは【有利性・有用性のトポス】によって理想的なこととして示され、視聴者に対して見習い、実行することを促す。その結果、視聴者は時間管理が“できる主婦”＝「良き主婦」になることは大事であると信じ込まされていくと考えられる。

冒頭談話は、「時間管理をすることは大切だ」ということを伝え、そのために役立つ情報に関心を抱かせるためのものである。このことへの賛同を得る過程で、主婦が家事・育児を担うことを当然のことと見なすことで、基本的な役割を確認、共有し、これらの役割を果たした上で自分の時間だけではなく家族との時間を大事にすることが理想的だと伝え、視聴者の賛同を得ようとしている。冒頭部分の談話では、基本的な主婦の役割を担った上で「良き主婦」になることが大事だと信じ込ませるために論証ストラテジーが展開されている。

## 6. まとめと今後の課題

ジェンダー・イデオロギーを伝達する機能をもつ談話には2つの側面、a) ジェンダー・イデオロギーを肯定する言語表現、b) それを視聴者に容認させる(信じ込ませる)言語装置の作用、があると考えられる。本稿では後者b)の側面に注目し、冒頭談話には、固定的性別役割分業意識を含むジェンダー・イデオロギーを規範として視聴者に受け入れさせ、信じ込むように導く言語装置としてディスコース・ストラテジーが作用している可能性について分析してき

た。具体的には、

- ・主婦を“できない主婦”と“できる主婦”に二分する指名ストラテジー
- ・“できない主婦”と“できる主婦”それぞれの特性を記述する叙述ストラテジーおよび強調・緩和ストラテジー
- ・“できない主婦”＝視聴者が“できる主婦”を見習うことの必要性・有用性を示唆する観点化ストラテジー
- ・“できる主婦”＝“良き主婦”であることは大事であるという「主婦」役割の規範意識すなわち固定的性別役割分業意識を容認するよう誘導する論証ストラテジーが、全体として（論証ストラテジーが他のストラテジーを包括する形で）機能する様子を見出すことができた。

今後は、西野（2022）で対象とした『あさイチ』の、残る9回分の冒頭部分の談話についても同様の分析を行い、固定的性別役割分業意識（ジェンダー・イデオロギー、役割規範意識）を肯定する言語表現の側面と、そのような意識やイデオロギーを視聴者に容認させる言語的装置＝ディスコース・ストラテジーの側面の、それぞれについての分析を行い、両者がどのように関係しながら固定的性別役割分業意識を伝達・再生産していくのかを究明していきたい。後者の側面については、談話の中で4つのストラテジーがどのようにして論証ストラテジーに包括されていくのか、その関係についても明らかにしていきたい。

## 注

- 1) 内閣府発行の行政資料では「性別役割分担意識」が使われているが、本稿では「性別役割分業意識」を用いる。「性別役割分業意識」とは「性別役割分業：性別を理由とする社会の分業並びに家庭内の役割分担」（井上輝子、上野千鶴子編（2002）『女性学辞典』岩波書店、p.484）の意識のこと。
- 2) 「表 4.1 談話ストラテジー」（ヴォダック 2010:107）、「表 .1 ディスコース・ストラテジー集」（ヴォダック、ライジグル 2015:47）、「表 1 ディスコース・ストラテジーの選択」（神田 2015:161）に記されている、ストラテジーによってある目的を達成するために用いられる言語的な装置を指す。
- 3) 木村（2011）は婦人雑誌を「近代のジェンダー秩序を構成するイデオロギーを伝達する社会装置」（木村 2011:274）として位置づけている。ジェンダー秩序とは「男女間の権力関係の歴史的に構成されたパターン、全体社会の構成構造を意味する構造モデル（Connell[1997=1993.160-161]）」（江原 2002:117）と定義されている。
- 4) ジェンダー・イデオロギーとは「ジェンダーに関して語られたディスコースの蓄積により、特定の社会において歴史的に作り上げられてきた様々な女性性、男性性、無性性、両性性（ジェンダー・アイデンティティー）が体系づけられたイデオロギーを指す」（中村 2004.115）。本稿では「ジェンダー・イデオロギー」を規範の総体と捉え、社会システムの中で作り上げられた「固定的性別役割分業意識」は「性別役割分業」（注1参照）を規範化する意識の一つとして「ジェンダー・イデオロギー」の一項目に含まれると捉えている。
- 5) CDSは1991年まではCDA(= Critical Discourse Analysis、批判的談話分析)と呼ばれていた。しかし「そ

の名称から談話分析の1つの分析方法であると誤解されることも多いため、近年は「批判的談話研究 (Critical Discourse Studies)と呼ぶことも増えている」(名嶋 2018:1)と説明されている。CDSの目的について、ヴォダック (2010)は「言語が使用される中で(もしくは談話の中で)表現されたり、意図されたりする、また、作り上げられたり、正当化されたりする社会的不平等を批判的に研究する」(ヴォダック 2010:11)と述べている。

- 6) 談話の歴史的アプローチについて「歴史的、組織的、政治的な話題やテキストを調査する 際、談話の歴史的アプローチは、談話『事象』が埋め込まれている社会的、政治的分野の歴史的源泉とその背景についての非常に多くの利用可能な知識を統合しようと試みる」(ヴォダック 2010:96)と説明されている。
- 7) ヴォダック、ライジグル (2015)、神田 (2015)ともに、分析対象であるメディアの談話がどのような論証を用いて読者を誘導しようとしているのか、その手がかりとしてディスコース・ストラテジーが使用されている文脈を見出し、トpos (論証ストラテジー)に当てはめた研究を行っている。
- 8) 2018年3月末までのNHKのHPでは「社会問題、政治の話題から、エンターテインメント、生活実用情報まで、主婦の皆さんが一番気になるテーマを毎日ピックアップ」と掲載されていたが、2019年4月からのメインキャスターの交代により「生活実用情報はもちろん、社会問題や政治などのジャーナルなテーマからエンターテインメントまで、皆さんが一番気になるテーマを毎日ピックアップ」となり、“主婦”は“皆さん”に変更されている。
- 9) トposの説明は、ヴォダック (2010:106-111)を参照。

## 参考文献

- 石井正彦・孫ヨンソク (2013)『マルチメディア・コーパス言語学—テレビ放送の計量的表現行動研究』大阪大学出版会。
- 江原由美子 (2002)『ジェンダー秩序』勁草書房。
- 神田靖子 (2015)「新聞投稿と新聞社の姿勢—新聞社は意図的に投稿を選んでいるのか—」名嶋義直・神田靖子 編『3.11 原発事故後の公共メディアの言説を考える』ひつじ書房、pp.157-198。
- 神田靖子 (2017)「原発事故と原発をめぐる新聞の姿勢—何が本当のところか—」名嶋義直編『メディアのことばを読み解く7つのこころみ』三元社、pp.87-122。
- 木村涼子 (2011)『＜主婦＞の誕生 婦人雑誌と女性たちの近代』吉川弘文館。
- 中村桃子 (2004)『ことばとジェンダー』勁草書房。
- 名嶋義直 (2018)『批判的談話研究をはじめる』ひつじ書房。

van Dijk, T.A. (2001). Chapter 5: Multidisciplinary CDA: A Plea for Diversity: Theoretical and Methodological Aspects of a Critical Discourse and Dispositive Analysis. In Wodak (Ed.), Critical Discourse Analysis (=2010, 服部圭子訳「第5章 学際的なCDA 多様性を求めて」ヴォダック, R., マイヤー, M. 編著, 野呂香代子監訳『批判的談話分析入門 クリティカル・ディスコース・アナリシスの方法』三元社, pp.133-166)。

Wodak, R. (2001) Chapter 1: What CDA is About - a Summary of its History, Important Concepts and its Developments. In Wodak, R. and Meyer, M. (Ed.), Methods of Critical Discourse Analysis. SAGE publication, London (=2010, 山下仁 (訳)「第1章 批判的談話分析とは何か? CDAの歴史、重要概念と展望」ヴォダック, R., マイヤー, M. 編著, 野呂香代子監訳『批判的談話分析入門 クリティ

カル・ディスコース・アナリシスの方法』三元社, 2010, pp.9-50)。

Wodak, R. (2001) Chapter 4: The Discourse Historical Approach. In Wodak, R. and Meyer, M. (Ed.), Methods of Critical Discourse Analysis. SAGE publication, London (= 2010 森本郁代訳「第4章 談話の歴史的アプローチ」ヴォダック, R., マイヤー, M. 編著, 野呂香代子監訳『批判的談話分析入門 クリティカル・ディスコース・アナリシスの方法』三元社, pp.93-131)。

Wodak, R., Meyer, M. (2015) Chapter 1: Critical Discourse Studies: History, Agenda, Theory, and Methodology. In Wodak, R. and Meyer, M. (Ed.), Method of Critical Discourse Studies. SAGE publications, London (= 2018, 野呂香代子訳「第1章 批判的談話研究 歴史、課題、理論、方法論」ヴォダック, R., マイヤー, M. 編, 野呂香代子, 神田靖子他訳『批判的談話研究とは何か』三元社, pp.1-32)。

Wodak, R., Reisigl, M. (2015) Chapter 2: The Discourse-Historical Approach (DHA) In Wodak, R. and Meyer, M. (Ed.), Method of Critical Discourse Studies. SAGE publications, London (= 2018 神田靖子訳「第2章 ディスコースの歴史的アプローチ (DHA)」ヴォダック, R., マイヤー, M. 編著, 野呂香代子, 神田靖子他訳『批判的談話研究とは何か』三元社, pp.34-87)。

#### 参考ホームページ

『あさイチ』旧NHK ホームページ 最終アクセス 2017 年 3 月 22 日。

『あさイチ』NHK ホームページ <http://www1.nhk.or.jp/asaichi/about/index.html>

最終アクセス 2023 年 8 月 17 日。

#### 参照資料

『あさイチ』NHK 総合 (テレビ番組)

“のぞいてみました！あの人のタイムスケジュール”.2016.4.27.

NHK 番組アーカイブス第3回学術利用トライアル (2016 年 9 月 6 日～11 月 15 日)

NHK 大阪放送局。

男女共同参画局 (2022)『男女共同参画白書 令和4年版』内閣府。

(2023 年 9 月 30 日博士後期課程単位修得退学)

(2023 年 8 月 17 日受付)

(2023 年 10 月 30 日掲載決定)